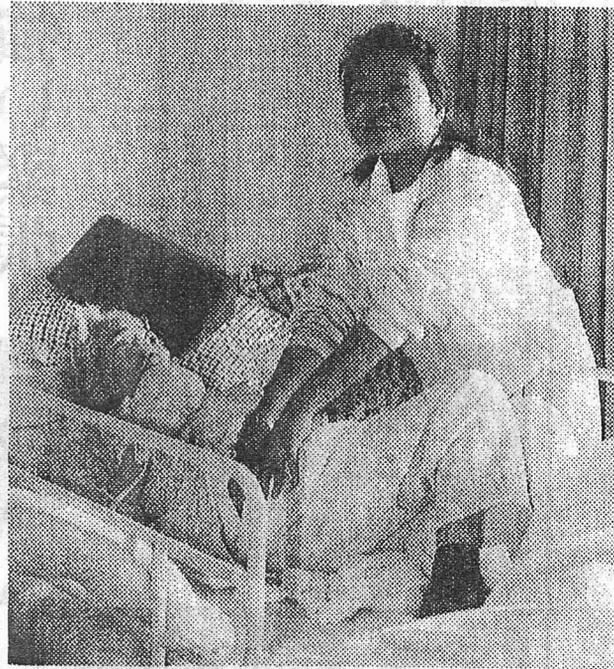


待望の看護学校みごと合格

「看護婦になって難民のために尽くしたい」一。内戦のためカンボジアを離れ13歳で来日、岡山市内の老人保健施設で介護の仕事をしてながら勉強を続けていたカンボジア難民クン・ダビーさん(22)＝岡山市栢津＝がこのほど、看護学校に合格した。県下の看護学校で難民が合格したのは初めて。

難民医療に尽くしたい

カンボジア出身 岡山のダビーさん



看護婦へ胸を膨らませながら、お年寄りの介護に励むダビーさん

仕事の傍ら猛勉強

プノンペン出身のダビーさんは本国の内戦激化にと

まない九歳の時、父クン・サワンさん(五)らとともにタイの難民キャンプへ。キャンプで知り合った日本人の

さんと継母ディウ・フンさん(三〇)の三人で来日した。一家は神奈川県大和市の難民定住促進センターに入り、三カ月間日常会話を勉強。ダビーさんは地元の小

学に編入して日本語の勉強を続け、昭和六十三年、学校に編入して日本語の勉強を続け、昭和六十三年、看護婦になることを決意した。

勤めで、日本への定住を希望し昭和五十八年、サワン

さんと継母ディウ・フンさん(三〇)の三人で来日した。一家は神奈川県大和市の難民定住促進センターに入り、三カ月間日常会話を勉強。ダビーさんは地元の小

学に編入して日本語の勉強を続け、昭和六十三年、学校に編入して日本語の勉強を続け、昭和六十三年、看護婦になることを決意した。

来はアジア各地の難民キャンプで医療支援に携わりた」と話している。

した。

昼間は病院で看護助手として働きながら、高校に通い、昨年三月卒業。センターで知り合ったアジア医師連絡協議会(A.M.D.A)本部・岡山市栢津、菅波内科(院内)関係者の紹介で、菅波茂・A.M.D.A代表が院長を務める老人保健施設すこやか苑(同所)で、介護職員として働いている。

ダビーさんはこの一年、昼勤、夜勤の合間を縫って看護学校入学のため受験勉強。今年になってから、同僚に苦手の漢字の書き取りや文章解釈の特訓を受けこのほど、念願かなって高梁看護高等専修学校(高梁市向町)に合格した。

ダビーさんは「看護婦になる夢に一步近付くことができ、本當にうれしい。将来はアジア各地の難民キャンプで医療支援に携わりた」と話している。